



東明

□令和2年10月9日発行

□男鹿市立男鹿東中学校

男鹿市船越字根木169番地

～ 皆がSTAR－彼方を照らす僕らの希望～

校長 木村 守人

前期終業式・後期始業式より（校長式辞）

秋分の日を境に青さを深める日本海と八郎湖、そして秀峰寒風山にも冷たい風が流れ、前庭のサルビアやマリーゴールドなどが例年以上に色鮮やかに輝いています。また、皆さんのブレザーにネクタイ・リボンと正装した姿が急に大人びて見えて、これまでの成長の足跡を感じています。本日、令和2年度前期終業式を全員無事で迎えられたことを生徒の皆さんと共に心から喜び合いたいと思います。

振り返ってみると、4月から5月は、新型コロナウイルス感染拡大が心配される中、皆さんの入学と進級を心からお祝いしました。そして、本校の校訓「英志つらぬけ」を再確認するとともに「志高く学び 男鹿に貢献する」こと、「夢に向かって笑顔で挑戦する」ことを誓いました。前期の生徒総会においては、感染拡大防止のため放送による総会となりましたが、執行部の活動方針や重点目標に胸を打たれました。一つ目は、生徒会執行部員による「新型コロナウイルス対策パトロール隊」の自主的な活動を開始したことです。二つ目は、生徒会活動の重点目標に「地域に貢献する活動」を力強く表明したことです。先行きの不透明な状況の中でも、自分たちができる最善策を考えるとともに、地域の発展を願い、地域に貢献する活動を宣言する生徒会執行部の高い志に感激しました。

6月から7月は、3年生にとって決して忘れることのできない運動部活動の総括、地区中学校総合体育大会を7月11日、12日の両日に実施できたことが最大のニュースでした。今年度の激励会は、放送による決意表明及び激励の応援メッセージとなりましたが、選手の懸命さと仲間への信頼、感謝の心などがまっすぐに表現されていて感動しました。成績は、野球とバスケットボール女子の二つの団体優勝をはじめ、準優勝が3競技、第三位が3競技、個人優勝が11種目と大活躍し、その笑顔に充実感と達成感がにじみ出ていました。

7月に延期して実施した運動会では、「輝志快晴－僕ら色の明日への虹(かけはし)」のテーマの下、生徒一人一人がもっている力を遺憾なく発揮するとともに、仲間と共に力を合わせて、自分色の明日への虹(かけはし)を渡ることができました。全学年の100m走、特色ある学年種目、色別対抗応援合戦や全員リレーなど、チームで協力し合い、高め合う姿や他者を尊重する姿が随所に見られ、東中生の理想の姿を表現できたと思います。できることならば、保護者や地域の皆さんにも披露し、難局を乗り越えている皆さんのたくましい姿を見てほしかったというのが本音でした。

夏休み中は、例年であれば職場体験学習や福祉体験学習、東中祭の準備で活気を帯びる時期でしたが、実施を見送らざるを得ませんでした。しかし、吹奏楽部員が、男鹿市民文化会館で楽曲「コタンの雪」を披露し、男鹿市民に元気と勇

気と感動を与えたことは大きな実績となりました。

9月は、運動部活動新人チームの活躍及び東中祭の準備が本格的に始まりました。地区の秋季体育大会では、柔道女子の団体優勝をはじめ、準優勝が4競技、第三位が2競技、個人優勝が14種目と大活躍し、先輩たちに肩を並べる成績を収めることができました。さらに、晴れ舞台である県秋季体育大会では、これまでのところ、ラグビー部が団体優勝、個人では女子共通800mで2年佐藤杏さんが昨年度に引き続き、2連覇の快挙を成し遂げたほか、小林夕尋さんが2年1500mで第二位、男子共通800mでも2年伊藤龍翔さんが第六位に入賞し、特筆されるニュースとなりました。この後に予定されている柔道の男女団体及び個人種目、バスケットボール女子、卓球男子個人の活躍などが本当に楽しみです。

10月は、何と言っても明日開催される東中祭です。東中祭テーマ「STAR－彼方(そら)を照らす僕らの希望(ひかり)」を胸に、生徒会長の秋山拓真さんの熱いメッセージのとおり、ワンチーム東中の誇りを胸に、全校生徒が一丸となって難局を乗り越え、合唱コンクールや吹奏楽演奏、有志発表におけるパフォーマンスなどで、皆が笑顔で満開になることを期待して式辞といたします。

秋田県教育庁中央教育事務所長の訪問より

9月30日(金)に、秋田県教育庁中央教育事務所副所長 伊藤 悟 様をはじめ6名の先生方が来校し、生徒の学習の様子や教育環境などを参観しました。その際、お褒めの言葉や指導助言などをいただきましたので、その一部を紹介いたします。

1 校舎内外の環境整備状況から

- (1) 学校環境が内外ともにすばらしい。教室及び廊下、階段、学年の掲示スペースなど美しい環境が保たれている。
- (2) 各学年の「夢の木」や各教室内のポートフォリオ、生徒作品から、生徒が生き生きと学習していることが伝わってくる。

2 学校経営説明及び参観授業から

- (1) 各学年とも90%以上の生徒が「学校が楽しい」と回答していることは特筆される。生徒と教師の信頼関係が構築されている。
- (2) 新型コロナウイルス感染拡大防止のために、深い学びを具現する中核となる活動が制限されていると思うが、生徒一人一人の目は輝いており、学習に集中している。

後期の教育活動においても「夢に向かって笑顔で挑戦」する東中生であるよう、全教職員が自らの使命を自覚し、授業改善及び生徒に寄り添う指導に努めてまいります。



【絵本の読み聞かせに聞き入る】